

主役交替

我が国の基幹産業と言え、車であった。現在でも車である。しかし、そろそろ主役交替の時期が来ているのではあるまいか。車から人への主役交替だ。

澄みきった青空が広がる晩秋の一日、奥多摩・三頭山に登ってきた。数馬峠から西峰を踏んで、中央峰から東峰に立つ。木製の展望台があって、休憩に絶好のポイント。雲が全然湧いてこない。ゆっくりお茶すると、たちまちお尻に根が生える。重くなったお尻を、えいっと持ち上げ、鞆口峠に向かう。峠までは急な下りが続く。こんな所を走る奴の気が知れない。

峠まで下って小休止。都民の森に向かってひと下りすると、奇妙な光景に出会う。ナントカコースというのがあって、入り口は柵でフタされ、長期閉鎖中という貼り紙がある。すぐ車道に出る。車道の左下に小さな流れがあって、対岸に車道と平行するように遊歩道が敷設されている。が、そこも入り口は柵で閉められている。その先が駐車場。売店があり、トイレがあり、都民の森バス停がある。バス停はあるが、12月に入ったいまの季節、バスは都民の森まで乗り入れていない。それは承知の上での三頭山登山。数馬まで歩いて下るのは、予定のうちだ。それはいい。

地図で確認すると、車道が右に下り、左にユーターンした先に数馬に下る山道がある。ご丁寧に、「多少荒れている」というコメントが付されている。車道の左右に目を走らせるが、歩道はない。都民の森は、車が主役の森なのだ。人に対する優しさが感じられない。

右に下り、左にユーターン。キョロキョロしながら下っていくと、山道の入り口を示す道標が目に入った。そこまで行くと、入り口はガードレールでガードされている。都民の森を考えた人が、歩く人に配慮がまったくないことは、一目瞭然だ。足の短いぼくは、やっとのことでガードレールをまたぎ、めざす登山道に踏み込む。地図に付記されている通り、多少荒れている。都民の森まで、車で行くのが当たり前、歩く人が少ないということだ。

多少荒れているが、品のある昔ながらのいい道だ。ナントカコースにしても、車道対岸の遊歩道にせよ、無理矢理作っているから、品がない。無理矢理作っているから、土砂崩れで閉鎖。都税を使って、山を傷つけているだけ。

この道を、もっと多くの人に歩いて貰いたい。数馬からこの道を都民の森へ登り、シャトルバスで数馬に下る。反対に、シャトルバスで都民の森に上がり、この道を歩いて数馬に下る。歩いてから泊まるか、泊まってから歩くか、数馬に泊まるようアピールすれば、数馬にもメリットがある。車から人へ、主役交替の季節がやってきたのだ。

都民の森バス停から山道入り口までの車道には、歩道を作り、ガードレールをまたがず山道に入れるようにして欲しい。